採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎広尾病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター

○多摩北部医療センター
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院 救急科 東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター　中島　幹男　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：東京都済生会中央病院 / 東邦大学医療センター大森病院 / 杏林大学医学部付属病院

基幹研修施設の都立広尾病院は、都市部の救命救急センターであり、3 次救急・集中治療だけでなく、島しょ医療、災害医療、東京 ER、ドクターカーなどにも力を入れています。3 次救急は単なる振り分けではなく、各診療科と協力しつつ可能な限り自己完結を基本としています。入院管理は ICU から一般病棟まで、多発外傷、ショック、呼吸不全、敗血症、薬物中毒、熱傷など多岐にわたります。島しょ医療、伊豆諸島・小笠原諸島から年間 200 件を越えるヘリコプター・航空機搬送に対応しています。また島しょ医療機関との画像伝送ネットワークによる診断補助や医師派遣なども行っています。災害医療は東京 23 区唯一の広域基幹災害拠点病院として、各種災害対策訓練を行っています。東京 DMAT としての都内出動もあります。東京 ER の一つとして 1・2 次救急にも力を入れており、日中は総合診療的な walk-in 患者から 3 次救急まで全てに対応しています。ドクターカーによりプレホスピタルの医療も学ぶことができます。さらに豊富な研究業績があり、やる気があれば臨床研究も実施可能です。本プログラムを通して、3 次救急だけの研修ではなく、1・2 次救急や一般病棟管理、ドクターカーによるプレホスピタル活動、島しょ医療への関わり、災害研修、などで総合診療能力を養いつつ、島しょ医療機関のような医療資源の限られた環境でも役に立てる救急医の養成を目標にしています。プログラムについてはニーズに応じて柔軟な対応が可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救急・集中治療											
2 年次	救急・集中治療、災害医療、プレホスピタル、地域医療、関連施設研修（杏林大学医学部付属病院高度救命救急センターなど）											
3 年次	選択研修（島しょ医療機関も可能）						救急診療・集中治療					

● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター　杉山　和宏　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：小児総合
東京大学医学部附属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 前橋赤十字病院 / 島根県立中央病院 /
海老名総合病院 / 島しょ等

救急医には、目前の患者の緊急度と重症度を判断し即座に対応する「緊急性」、疾病・外傷などの原因や罹患・損傷臓器の種類を問わず対応する「多様性」、加えて、様々な背景の患者の診療に対応する「社会性」が求められます。これらをたゆまず確実に実践していくことが、救急医療を支えていくための礎となる救急科専門医のモットー（すすむべき道・信条）です。墨東病院は ER と独立型の高度救命センターを有し、walk-in 患者から生命の危機が切迫した患者まで、幅広い救急診療に携わることができ、救急医の研修に適した環境にあります。また、集中治療科での研修を合わせて行うことができ、重症患者の ICU 管理を深く学ぶことができます。当プログラムでは、都内有数の症例数を誇る当院での研修を中心に、東京大学附属病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、前橋赤十字病院、島根県立中央

救急科

病院、小児総合医療センターといった多彩な連携施設にご協力いただき、救急医としての視野を広げることができます。また、研修を通して区東部医療圏の救急医療体制、特に救急搬送 (プレホスピタル) と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事も学びます。日常の診療の他に学術的な活動も重視し、積極的に学会発表、論文発表を行っております。我々とともに地域の救急医療の更なる発展を目指して研修いただける方をお待ちしています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救命救急センター			ER			ICU			他科ローテーション		
2 年次	連携施設			連携施設			救命救急センター /ER					
3 年次	連携施設			救命センター / E R								

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
集中治療

プログラム責任者：集中治療科　牧野　淳　　プログラム研修期間：2 年

当プログラムは、米国で総合内科・感染症・集中治療を学んだ医師が中心となり、豊富な内科的知識をバックグランドに多職種連携による強みを活かしつつセミクローズドスタイルで ICU8 床と HCU20 床の重症管理を実践している国内でも数少ない施設です。術後全身管理や院内急変管理を始め、院内急変迅速対応や人工呼吸器回診、院内重症管理セミナー、ACP への取り組みなどの組織横断的な活動も積極的に行っています。研修では、1. 高度医療の安全な提供、2. 患者ニーズに応じた医療の提供、3. 教育・経営における病院貢献、を目標に研修を行います。研修修了時に、集中治療専門医として必要な知識・技術の習得だけではなく、後輩医師やコメディカルを育成できるシステムの構築、病院経営を意識した ICU 運営ができるような自立した医師を育成することが目標です。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科　清水　敬樹　　プログラム研修期間：3 年

連携施設病院：多摩北 / 小児総合
帝京大学病院（東京都）/ 佐久総合病院（長野県）/ 日本赤十字社医療センター（東京都）/ 浦添総合病院（沖縄県）/ 秋田赤十字病院（秋田県）/ 西南医療センター（茨城県）/ NTT 関東病院（東京都）/ 昭和大学病院（東京都）/ 埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県）/ 千葉大学病院（千葉県）

本研修プログラムを修了した救急科専門医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるための臨床能力を習得することができるようになります。まずは実際に見学しにいらしてください。黒い術衣をまとったスタッフがお待ちしています。

【救命初療から集学的治療】

当院救急科の特徴は、初療室から入室後に重症患者であれば救急科が主科となり集学的治療へと速やかに移行可能なことです。集中治療医学に関する知識・経験が豊富なスタッフからのフィードバックが可能です。

【チーム医療】

「チーム医療」が現在の救急・集中治療分野におけるキーワードになっています。「チーム医療」を十分に意識して多くのスタッフと協調性を持ちながら医療を継続していける救急科専攻医を目指してください。救急科専門医の取得は当然ですが自分のサブスペシャリティーを探す 3 年間とも言えます。

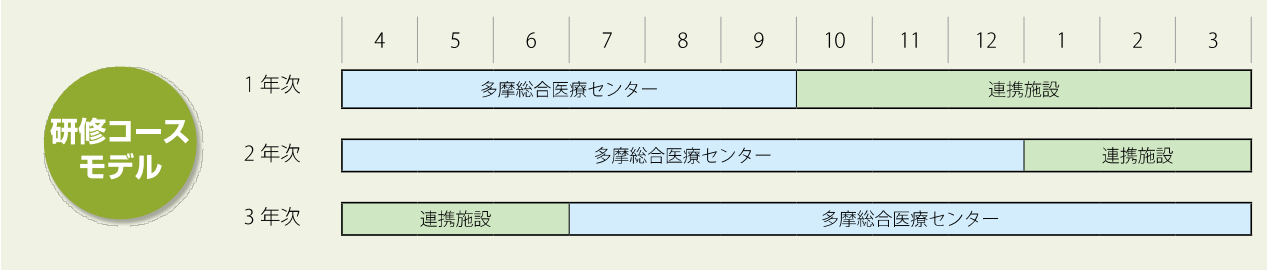
【ドクターヘリ研修】

東京都のような都市型救命救急センターでは現時点ではドクターヘリなどは導入されていません。ドクターヘリが必要不可欠で導入・運営している地域で一定期間研修することで医師の患者さんへの早期接触、早期治療開始の重要

性を認知して頂ければと思います。

【ＥＣＭＯ】

重症呼吸不全に対する呼吸補助目的の対外循環装置を使用したＶＶ－ＥＣＭＯの管理に関して、当院では世界基準での管理を確立しています。装置、回路、管理方法など欧米のノウハウを導入し、他院へ出向いてのカニュレーション、搬送など本邦で最高レベルのＥＣＭＯ管理の研修が可能です。



○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
集中治療

プログラム責任者：救命救急センター　清水　敬樹　　プログラム研修期間：3 年

本コースは集中治療専門医制度に則った研修の提供を目的とする。当院を基幹施設として専門性や特徴が異なる複数の連携施設での研修により、病態・診断・治療、さらには集中治療領域では必須である多職種連携・チーム医療の重要性も含めて他の診療科からも頼りにされる集中治療専門医の育成を目指すプログラムとなる。【多摩総合医療センター（基幹施設】 救命救急センターでの初療後は主科として速やかに集中治療に移行する。多発外傷、心肺停止蘇生後、心不全、痙攣重積、急性薬物中毒、広範囲熱傷、急性腹症術後、重症呼吸不全への呼吸 ECMO など 【東京女子医科大学（連携施設）】 心臓血管外科術後、循環器疾患の集中治療など 【あさか医療センター（連携施設）】 我が国最高峰の神経集中治療の真髄を研修する 【都立小児総合医療センター（連携施設）】 新生児、小児の集中治療の研鑽を図る。